



第 1628 回例会

平成 22 年 8 月 30 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「手に手つないで」
3. ビジター紹介
亀岡 弘昭様(高野山 RC)
4. 出席報告
会員総数 68 名 出席者数 48 名
出席率 70.59% 前回修正出席率 73.53%

5. 会長スピーチ



会長 谷脇 良樹 君
みなさん、こんにちは。相変わらず暑い日が続きます。体調には気をつけてください。高野山ロータリークラブの亀岡弘昭様、ようこそおいでくださいました。

8月28日29日とローターあくとの 2640 地区、2660 地区交流会がありました。28日は

紀三井寺「はやし」で、翌日は藤白神社から熊野古道の体験という日程でした。当クラブの中西地区委員長はじめ、阪口地区委員長、大江新世代委員長、寺下さん。翌日は吉田さん、そして、私と参加してまいりました。

R I 会長の強調事項が毎年発表されます。皆様もご承知のように何年、何十年も水、識字率、食料、ポリオ等と同じ年の繰り返しです。これは、それだけ問題が大きく、根が深いものである証拠です。我々は日本にいれば水や識字率はあまり身近に感じませんが、ロータリーは世界 150 万の会員がこの大きな問題を少しでもよりよくしようと頑張っています。2~3 年前の R I 会長の李東建さんは「1 人でも子供の命が救われたら」と語っておられます。まさに、あせらず、気長に取り組みをしてゆく奉仕活動です。

皆さんも各々の月間には何卒よろしくご努力をお願いします。

6. 幹事報告

幹事 上野山 雅也 君
○例会臨時変更のお知らせ

和歌山西 R C 9月8日(水) → 9月7日(火)

12:30~ ロイネットホテル和歌山

(ガバナー公式訪問)

和歌山中 R C 9月10日(金) → 9月8日(水)

18:30~ ルミエール「華月殿」

(ガバナー公式訪問)

○メールアドレスの変更

新宮 R C 8/25 から

rotary@rifnet.or.jp

7. 第 1 回研修談話会報告

8月21日(土)18:00~「美登利」で、平尾研修委員長、深谷情報委員長はじめ、会長、幹事、各委員会メンバーと入会5年までの会員19名が参加しました。

はじめに「ロータリーは仲良しクラブでは少し寂しい。ロータリーの原点に帰って、奉仕と親睦を中心とした活動を積極的に推進したい。みんなで協力して海南東 R C を発展させましょう」「日頃は創生期の会員と新しい会員が意見交換する機会が少ないと思うので、本日は新しい会員の積極的な意見をお願いします」「今年度は I DM を中心に会議を進めていただこう予定です」等の趣旨を説明しました。

このあと、チャーターメンバーの宮田敬之佑会員から、海南東 R C の誕生にまつわる話があり、懇談会に入りました。

懇談会では「ロータリー関連の用語が難しい。クラブにどのような同好会があるのか知りたい。そして、参加したい」「出席する機会が少ないので、申し訳ないですが、できるだけ親睦を深めたい」「会員の名前を覚えたいので、例会では名札をつけて欲しい」「例会席を抽選で決める方法は、日頃、話す機会の少ない会員と懇談できるので、月に1度は実施して欲しい」「入会5年目でロータリーの目的がようやくわかつてきた」



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：谷脇 良樹 幹事：上野山 雅也 S A A : 三木 正博

「仕事の関係で出席出来ない時がありますが、できる範囲で例会や行事に参加する努力をしたい」などの意見が出され、先輩会員から多くのアドバイスがあり、和気藹々の有意義な研修会でした。

8. 会員卓話

○会長会議報告 会長 谷脇 良樹 君

R L I 研修プログラムについて

ロータリーリーダーシップ研究会(RLI)は、ロータリークラブの指導者開発計画を実施するための、ロータリーの地区と地域の基本的な連合組織です。RLIは高い教育的な経験を備えた将来のクラブ指導者を要請する目的で、その可能性のある特定のロータリアンを支援するために、ニュージャージー州の中央にある7510地区で、デヴィッド・リネット地区ガバナーによって1992年に設立されました。

1994年には、ニュージャージー州で更に3つの地区が加わって多地区の活動となり、1998年には、31ゾーン、32ゾーン(アメリカの北東部、中部大西洋岸、カナダの一部)に広がり始めました。

RLIが2つのゾーンに広まつたことで、このプログラムは国際ロータリーの役員の関心を惹きました。プログラムは、2001年の国際協議会のスピーチの中で取り上げられ、「指導力成功談」としてRIウェブ・サイトに掲示されるとともに、RIニュース・バスケットの2002年3月20日号の記事にもなりました。RI理事会は、クラブや地区がRLIおよびこれに類似したプログラムに参加することを推奨するという決議を採択しました。2001年9月に、RLI常任委員会はロータリーの世界全体に、ある程度の自治権を持った支部を作るという拡大計画を採択しました。常任委員会は、31ゾーン、32ゾーンの外部に拡大する必要性を認める一方で、支部を成功させるためには、RLIからの支援が必要であることを認めました。2003年9月に、RLIと本部(31ゾーン、32ゾーン)の機能は切り離され、現在、支部の統括機能は国際ロータリーリーダーシップ研究会もしくはロータリーリーダーシップ研究会と呼ばれています。

統括組織の管理主体は、それぞれの支部長によって構成されたRLI調整審議会(RLI Coordination Council)、国際委員長、国際常務理事、将来も受けられる予定の調整審議会の他の役員です。調整審議会はRI国際大会のほか、委員長または審議会の招集によって開催されます。調整審議会は年次予算と支部分担金を決定し、RLIの基準と目標を決定します。

ロータリーリーダーシップ研究会の目的は、クラブの会長によって推薦された、指導者としての素質を持った特定のロータリアンに、教育を受ける機会を提供することです。

今後毎年、各クラブの会長は、クラブの指導者候補者として(必ずしも、会長候補者というわけではありません)会員を指名するように要請されます。指名された人は、ロータリーの知識と指導力を伸ばすためのコースを受講することができます。これらのコースは、熱心で、独創的で、ひたむきなロータリアンになるよ

うに受講者を動機づけることを期待したものです。3日間コースの全期間出席した人には、完了の認証が与えられます。講義内容はもっとも斬新なもので、可能な限り参加者参加形式が採られます。その手法には、グループ・ディスカッション、ロール・プレイング、問題解決ワークショップ、グループ計画トレーニングなどが含まれ、講演は限定されています。

基本的なコースでは、丸3日間の「部門 Part」が提供されます。参加者によっては、3年間かけて毎年「1部門」を受講するかもしれませんし、異なった場所で他の「部門」に出席するかもしれません。本部では、参加者はいかなる場所のコースでも出席できますし、(2003-04年度は23箇所で実施)、どの場所でも同じプログラムを実施するつもりにしています。「部門」は、I、II、IIIの順番で受けなければなりません。3「部門」が終了したときに、参加者はRLIピンを受け取り、次いで、様々な問題に関して深く研修する「卒業生セミナー」を選択することができます。卒業生プログラムは、2000-01ロータリ一年度に、32ゾーンで開始されており、毎年、広げられる予定です。カリキュラムの話題はウェブ・サイトに掲載されています。カリキュラムは毎年改訂され、改定された指導者用資料や参加者用資料は、ロータリ一年度初冬、すべての支部に配布されます。指導者は、ディスカッション・グループを指導する前に、丸1日かけてオリエンテーション・プログラムを受けます。通常、指導者の大部分は、そのコースを実施する目標となった地区以外の地区から来ます。本部における指導者は、毎ロータリ一年度に、2日間か3日間以上のコースを志願するものと予想しています。指導者は地区ガバナーや地区RLIリーダーによって推薦されます。

○新世代委員長会議報告

地区ロータークト委員長 中西 秀文君

新世代委員長 大江 久夫君

7月25日(日)のローターアクトのリーダーシップフォーラムに参加しました。



今年度のクラブテーマ、クラブ人数、年間行事予定、今期の目標は発表があり、担当クラブのアトラクションが行われました。このほか、海外研修オリエンテーション、8月28日~29日に行われる2640地区、2660地区交流会の予定やイベント等の計画について話し合いました。

8月28日~29日に行われる2640地区、2660地区交流会では、28日に紀三井寺「はやし」で両地区的ローターアクトのメンバー同士が親睦を深めました。当クラブの中西地区委員長はじめ、阪口地区委員、寺下さんと私が参加してまい



りました。翌日の29日は藤白神社から熊野古道を歩き、海南、下津の海、和歌の浦の美しい景色を見ました。

8月21日はグラブ新世代部門別委員長会議がテクスピア大阪で開催され、当クラブから吉川さんが出席しました。インタークト、ロータークト、ライラ、青少年交換学生、青少年留学生、ROT EXの関係者が集まりました。はじめに米田ガバナーの講演や8グループに分かれてのグループ討論があり活発な意見交換が行われました。

9. 閉会点鐘

次回例会

第1628回例会 22年9月6日(月)

海南商工会議所 4F 18:30~

夜間例会 お誕生日、結婚御祝い



ロータリアンであるヴィマル・ヘマニさん、ディーパク・アグラワルさん、シュリナンド・パルシカールさん、キラン・ティップさん、ラジエッシュ・バットさん。塩田で働く人々の生活を改善するために、インド西部に備え付けられた5基の風車のうちの1基とともに。写真提供:ワドワーン・シティ・ロータリー・クラブ



ニコニコ・BOX

宮田 貞三君

7月に息子が結婚しました。クラブより過分の御祝いを頂き、ありがとうございました。

前田 洋三君

長女が結婚しました。クラブより御祝いを頂きありがとうございました。KF会、サンリゾートGCで優勝しました。

深谷 政男君

大曲花火楽しんできました。

中西 秀文君

8/28(土)、29(日)の2640と2660地区交流会の報告をさせて頂きます。

上野山 雅也君

KF会楽しかったです。

谷脇 良樹君

会長会議の報告をさせて頂きます。

亀岡 弘昭様

酷暑お見舞い

(高野山 RC)



ロータリーニュース

風車を利用して塩生産者の収入を増加

インド西部、グジャラート州の砂漠地帯にあるカッチ小湿地で、塩を生産して生計を立てている5家族のために、ロータリアンから風車が贈られました。この風車のおかげで収入が2倍になったと、家族たちはロータリーへの感謝の気持ちを表しています。

インド、ワドワーン・シティ・ロータリー・クラブと、米国アリゾナ州のサウスウェスト・ロータリーEクラブが、財団のマッチング・グランツおよびクラブと第5510地区(アリゾナ州)からの寄付により10基の風車を購入しました。これらの風車は、塩分を多く含んだ地下水を汲み上げ、塩田で水分を蒸発させて塩

を収穫するため役立てられます。塩性湿地であるカッチ小湿地には、最高800トンにものぼる塩を収穫するため、毎年およそ1万以上の家族が移住してきます。同じくこの地に移住してきたこれら5家族は、風車が利用できるようになる前、地下水の汲み上げにディーゼルエンジンを使っていました。

2月、風車の製造者により設置作業が行われ、ロータリアンと家族がこれを手伝いました。クラブの会員たちは、6カ月に及ぶ塩の収穫シーズンが始まる10月までに、さらに風車5基の設置を終える予定です。今年3月、これらの家族の元を訪れたディーパク・アグラワル第3060地区ガバナー・エレクトによると、燃料代やエンジン修理代がかからなくなったおかげで、一戸につき1カ月で100ドルが節約できるようになったといいます。「このプロジェクトによって、家族たちは、コップや電球、子供たちの本など、生活必需品が買えるようになった」とアグラワル・ガバナー・エレクト。「エンジンのメンテナンス費用を払う必要がなくなったため、ある父親は子供を学校へ通わせ、母親は子供に本を読んであげることができるようになりました」さらに、風車1基で、一家族分の電力も供給できるということです。モンスーンによる雨季が始まる前の4月上旬、塩田の作業者たちは、鉄と強化プラスチックでできた約6メートルの風車を一部解体し、トラックとトラクターで周辺の村へ運びました。雨季には、この砂漠は1メートル以上の水に沈んでしまうからです。このプロジェクトを提案したのは、ワドワーン・シティ・ロータリー・クラブ会員のシュリナンド・パルシカールさんでした。2008年、塩田で働く人々を対象にパシカールさんらがニーズ調査を行ったところ、燃料費が収入を上回っているという事実が判明したのです。翌年、クラブは風車を1基購入し、グジャラート州の根新技術推進ネットワークと協力して試験的な実験を行いました。砂漠環境でも稼動するよう風車を改造するにあたり、クラブの会員たちの専門知識を提供しました。

ワドワーン市近くに住むヴィマル・ヘマニさんがサウスウェスト・ロータリーEクラブの会員だったため、同Eクラブはこの活動について知りました。

「当Eクラブの会員は、いろいろな国から集まっているため、このプロジェクトの支援は難しくありませんでした」と、同Eクラブのラリー・レビンソン会長は

話します。「ヘマニさんが、現地で直接プロジェクトに参加し、インド側の提唱者らと協力してくれました」「この風車は、現地の環境に合わせて作られているため、メンテナンスをあまり必要としません」とパルシカールさん。「既に2回のシーズンにわたって試験済みですから、かなりの自信があります」家族が2基の風車を利用した場合には、燃料費が80パーセント削減でき、さらに収入が増やせるとともに、空気汚染の予防にもつながると、パルシカールさんは述べます。アグラワル・ガバナー・エレクトによると、同地区は、2011-12年度に風車100基の提供を計画しているそうです。また、同氏は、地元の非営利団体や銀行に働きかけ、家族が風車を購入できるよう、マイクロクレジット（小口融資）の交渉も行っています。レビンソンEクラブ会長は、次のように話します。「最初の収穫シーズン後に大きな成果が確認されたら、今後、支援をさらに拡大していきたいと考えています」

日本の元国際親善奨学生が 宇宙飛行士に

日本人宇宙飛行士で、元国際親善奨学生である山崎直子さんは、子どものときから宇宙にあこがれていたと言います。故郷の千葉県松戸市では、毎晩のように星を観察していましたが、成長するにつれ、映画「スター・ウォーズ」やスペース・シャトルの打ち上げのテレビ中継によって、山崎さんの熱意はますますかき立てられました。



「この映画や、テレビ中継の影響で、いずれはみんなが宇宙旅行をするのだろうと思っていました」と、日本人女性としてはまだ2人目の宇宙飛行士である山崎さんは語ります。スペース・シャトル「ディスカバリー」の乗組員として、山崎さんは既に360時間を超える宇宙飛行歴を積みました。去る4月には、国際宇宙ステーションに向かって、ディスカバリーによる物資補給ミッションで、ミッション・スペシャリスト（搭乗運用技術者）として参加しましたが、この経験は山崎さんにとって特に意味深いものでした。「私は、宇宙ステーションの開発チームの一員だったのです。日本、米国を始めとする15カ国が協力して国際スペース・ステーションを開発したというのは、実に感動的でした」山崎さんの宇宙飛行士としてのキャリアの選択には、1994-95年度にロータリー奨学生として国際プロジェクトに参加した経験が大きな影響を与えました。山崎さんは、千葉県の松戸中央ロータリークラブから派遣され、米国メリーランド州のメリーランド大学で宇宙ロボット工学を学びましたが、そこで一緒に研究をしていた世界からの学生たちが、日本人の自分より日本と日本文化をよく知っていたことに驚かされました。この経験は、

自分の母国のことだけではなく、客観的にものを見る大切さを教えるものとなりました。山崎さんは、この客観性は宇宙飛行士としての仕事にも大事だと考えています。「地球を離れた場所から研究すると、とても学ぶことが多いのです」と山崎さんは語ります。留学中にはまた、コミュニケーションのスキル、入念な準備、そしてチームワークの大切さも学んだと言います。これは、1996年に日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）で宇宙飛行士としてのキャリアを始めたときにも生かされました。宇宙計画で効率よく情報を共有し、協力し合うには、コミュニケーションが大事です」と山崎さん。『留学先で、特に外国語で意思の疎通をしようとする場合も同じですね』実際に宇宙飛行をするに至るまでの道のりには、カナダ、日本、ロシア、米国での10年近い訓練がありました。基礎的な訓練を終えてからは、ロシアへ赴き、7ヶ月かけてロシアの宇宙船「ソユーズ」のフライト・エンジニア（航空機関士）の資格も取りました。地球に戻ってからの山崎さんは、NASAへの訪問、宇宙船の軌道を検討する専門家会議への参加、広報活動など、宇宙飛行の事後活動に携わっています。『宇宙ステーションは2020年まで運行される予定ですから、もう一度行けるといいと思います』その日まで、山崎さんは宇宙ステーションやその他のミッションを地上からサポートしながら、自由時間ができたときには、大好きな映画のシリーズ、「スター・ウォーズ」を家族と楽しむつもりだということです。



写真上：国際宇宙ステーションへの「ディスカバリー」の搭乗中、日本の実験モジュール「きぼう」で無重力状態を実演する山崎直子さんと野口聰一さん。日本人宇宙飛行士が2人で一緒に宇宙を旅したのは、歴史上これが初めてでした。
写真下：山崎直子さん。写真提供：宇宙航空研究開発機構（JAXA）

9月プログラム (新世代のための月間)

- | | |
|------------------|------------------------|
| 6日（月）夜間例会 18:30～ | お誕生日祝い・結婚祝い |
| 13日（月）例会 12:30～ | 会員卓話 角谷勝司 さん |
| 20日（月）祝日 休会 | |
| 27日（月）例会 12:30～ | ゲスト卓話
和歌山ダルク 和高 優紀様 |